

2026

2-3月

# はしかけニューズレター

2025年度 第6号 通巻 187号

2026年(令和8年)2月13日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 金尾・大久保・太尾田)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: [hashi-adm@biwahaku.jp](mailto:hashi-adm@biwahaku.jp) 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

## ～ 目 次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (3) 淡海スケッチの会 (4) 近江はたおり探検隊  
(5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 里山の会  
(10) 植物観察の会 (11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ  
(13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん  
(16) ほねほねくらぶ (17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人 (20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流  
(22) 水と暮らし研究会 (23) 海浜植物守りたい (24) 内湖を知ろう会

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報 (2月～3月)

### 4. 生活実験工房からのお知らせ

### 5. その他の事項

会員数 ... 422人

グループ数 24グループ

(2026年 2月13日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

暦の上では立春を迎えましたが、まだまだ寒い日が続いております。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。どうぞ風邪など召されませんよう、お身体には十分お気をつけください。

さて、年度末が近づき、会員情報の更新時期となりました。また、年明けには新しいグループが加わり、本年もにぎやかにスタートしております。つきましては、事務局より以下の4件についてお知らせいたします。

### ■ 新しいはしかけグループが加まりました！

年初より、新たなはしかけグループ「内湖を知ろう会」が活動を開始しました。

グループの新設は2019年3月以来、実に7年ぶりとなります。今号から、ニューズレターでも活動の様子をご紹介してまいります。会員の皆さまには、ぜひ温かくお迎えいただき、今後の活動にもご注目いただければ幸いです。

### ■ 会員登録の更新手続きについて

年度末が近づいてまいりました。2026年度も引き続き活動をご希望の方は、会員登録の更新手続きが必要です。

2月下旬に「更新手続きのご案内」をお送りしますので、同封の「更新受付票」に必要事項をご記入のうえ、事務局までご返送ください。

**※本年度も、対面での更新手続きや担当職員を通じての受付は行いません。**

個人情報および現金の取り扱いに関する事故防止のため、何卒ご理解のほどお願いいたします。

### ■ 会員登録の更新手続きとボランティア保険加入について

会員登録をされる方には、原則として「全国社会福祉協議会ボランティア活動保険」への加入をお願いしております。2026年度の更新手続きより、保険加入に関する規定が一部改正されましたのでお知らせいたします。

### 【2026年度からの主な変更点】

#### ① 年齢条件の緩和

これまで加入できなかった10歳未満の方も、小学生以上であれば加入可能となりました。

※未就学児の方は、従来通り会員様各自での保険加入をお願いいたします。

## ② 他団体で既に参加している場合

他団体でご加入済みの「全国社会福祉協議会ボランティア活動保険」は、当会の活動にも適用されます。

※事故発生時の申請は、加入先の団体を通じて行っていただく必要があります。

該当される方には、更新手続き時にあらためてご案内いたします。詳細は後日お届けする「更新手続きのご案内」をご確認ください。

## ■ 2025 年度 第4回 会員登録講座(オンライン)のお知らせ

今年度最後のはしかけ会員登録講座を、2026 年2月 22 日(日)～3月8日(日) の期間でオンライン開催いたします。お近くに会員登録をご希望の方がいらっしゃいましたら、ぜひこの機会をご案内ください。

なお、受講の申込み期間は 2025 年 12 月 12 日(金)～2026 年2月 20 日(金)迄となっておりますので、ご注意ください。

※お申し込みは琵琶湖博物館ホームページのイベント情報(セミナー)に掲載のリンクからお願いいたします。

[https://www.biawahaku.jp/event/2026/02/post\\_2035.html](https://www.biawahaku.jp/event/2026/02/post_2035.html)

(太尾田 康生)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 62 名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

#### 【活動報告】

■ 12 月 21 日(日)雨天のため中止となりました。

■ 1月 18 日(日) 午前: 大戸川臨時調査 午後: 魚の見分け方講座

場所: 大戸川、琵琶湖博物館 参加者: 午前 32 名、午後 30 名

午前中は、大戸川にて国内外来種の状況調査、午後は琵琶湖博物館で魚の見分け方講座を実施しました。大戸川には冬にもかかわらず 30 名以上の会員が集まり、うおの会会員の魚への熱に、ちょっと感激しました。龍谷大学 OB で田上地域で活動されている皆さんからの状況説明のあと、3 班に分かれて川へ。気温はそこまで低くないものの、水温は 6℃台で、素手ではすぐに手が冷え切ってしまう状況。頑張って 1 時間ほど採集を行いカワムツ、ギギ、シマドジョウ、オイカワ、フナ類などを採集できました。

午後からは博物館へ移動し、湖岸付近の魚を対象とした、魚の見分け方講座です。ベテランの方には当たり前でも、初心者には難しい。そんな点を意識して説明しました。座学の後には博物館内の水族展示を見学し、復習。30 分ほどの予定が、時間になっても戻ってこない人がほとんど。水族展示見学が 30 分では、うおの会には短かすぎた！と反省。1 日を振り返ってみると、野外採集から座学、展示見学と、充実した内容で実施できたと思います。午前、午後通し参加の方も多数おられました、本当にお疲れ様でした。(文責: 中尾博行)



大戸川で採集されたシマドジョウ類



冬でも魚は採れる！

#### 【今後の予定】

3 月は総会を予定しています。詳細はメールにてご連絡します。



### (3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6 名】

グループ担当職員: 桒永 一宏

#### 【活動報告】

■ 2025年 12月 21日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名

2026年の活動についてミーティング。オープンラボでスケッチ。  
博物館敷地で吟行もしました。

■ 2026年 1月 25日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名

オープンラボでスケッチ。博物館敷地で吟行もしました。

#### 【活動予定】

○ 2026年 2月 22日(日) 琵琶湖博物館

各々、館内でスケッチを行います。俳句をされる人は  
敷地内で吟行。後にオープンラボで句会を行います。

活動時間 10時30分～(16時)

○ 2026年 3月 22日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後  
は句会も予定しています。

活動時間 10時30分～(16時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。  
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

○博物館 de 俳句

1月の活動日はあいにくの雪となり、句会は中止となりました。  
この日、都合のついたメンバーは3名。  
屋内のスケッチ組は鵜の剥製を水彩絵の具を用いて写生などを  
しました。

俳句組は句材を探して生活実験工房のほうへ。  
時折雪が激くなりましたが、積もるものではなく、たちまち消えて  
ゆきました。立春にはまだ間がありますが、淡雪、ぼたん雪、春の雪  
などの季語が思わず口をついて出ました。

ちなみに琵琶湖でおなじみのえり漁ですが、春の季語に「えりを挿す」  
というものがあります。

☆右の写真は1月25日の雪の湖と蓬の芽生え





## (4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員:大久保 実香

### 【活動報告】

#### <織姫の会>

■12月10日(水) 参加者:8名

工房の中川さんにご協力いただき、しめ縄作り。何回もやっているものの、年に1回しかないなので、やり方を忘れてしまって、また習いました。今回は干支にちなんだ馬形のしめ縄が人気でした。

■12月20日(土) 参加者:11名

今年最後の織姫の会だったので、工房和室の大掃除。地機を置いている、和室の縁側部分は汚れていたため、織り機をだしてきれいに掃除しました。片付けると、びわ博フェスのときに使ったクルミなどの樹皮の残りが大量に出てきました。捨てるのはもったいないので、次回以降材料消費のため、ストラップ作りなどをしようと思います。

#### <その他>

■1月10日(土) わくたんと共催「綿に触れてみよう」 参加者:6名、体験者10名

今年もわくたんと共催で、綿から糸までのワークショップをしました。今回はお手伝いの人数が多かったので、比較的ゆったりと回せました。とはいえ、スピンドルのコーナーではなかなか思ったとおりにできないので、混雑しました。場所どりを改良する必要があります。また、できた糸は持って帰ってもらっていますが、もう少し有効活用できないか、要検討です。



12月10日しめ縄作り

### 【活動予定】

#### ■織姫の会

1月31日(土)、2月11日(水・祝)、2月28日(土)、3月14日(土)、3月25日(水)

(文責:辻川智代)



## (5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:里口 保文

### 【活動報告】

■2025年12月の活動は休止

■2026年1月の活動予定

○隊員各自が採取した岩石を持ち寄り、観察勉強会を行う。後半は3月予定の体験プログラムについての話し合い。

1月24日(土)13:30~16:00 琵琶湖博物館 実習室

■今後の活動予定

○地学研究発表会 2月

○体験学習プログラム【わくわく探検隊】 3月



## (6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

### 【活動報告】

○活動日 1月24日(土)

○参加者 3名

○活動内容 撮影会「烏丸半島の冬」

北風の吹く寒い日でしたが、青空のもと参加者各自「烏丸半島の冬」をカメラにおさめることができました。  
琵琶湖には、多くの水鳥の姿がありました。また、烏丸半島から見える湖西の山々は雪で白く輝き、たいへんきれいでした。

今年は、滋賀県でも大雪が降り、交通や生活にも影響が出ています。このような気象に関する写真も後々大切な記録になるのではないかと考えています。写真が好き、カメラが好きというはしかけの皆様、私たちと一緒に写真で記録に残す活動をしませんか。

「温故写新」は、今を後世に残す活動をこれからも続けていきたいと思います。  
今年もどうぞよろしくお願いいたします。



## (7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員:大久保 実香

### 【活動報告】

12月、1月の活動はありませんでした。

### 【活動予定】

地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。  
(大久保 実香)



## (8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7 名】

グループ担当職員:山川 千代美

### 【活動報告】

#### ■地層観察に向けた粒度表作り

日時: 12月21日(日)13:00~16:00

場所: 琵琶湖博物館実習室1

地層の観察に用いる粒度表の作成を行いました。事前に用意した土を電動ふるい機にかけて、極粗粒砂、粗流砂、中粒砂、細粒砂、極細粒砂、粗粒シルトに分けました。粒度ごとに分類した後、マドラーで粒砂を取り、丁寧に粒度表の台(絵の具パレットを使用)に置いていきました。粒砂を置く箇所には、事前にボンドを薄く塗り広げておき、粒砂を固定させる必要があり、特に極細粒砂や粗粒シルトは、台が少し揺れただけでも周辺に散ってしまうことがあるため、より丁寧に作業を行いました。

今後、作成した粒度表を用いて、実際に野外調査、地層観察を実施し、利用できるようにスキルアップする予定です。



電動ふるい機



粒度ごとに分類



### 【活動予定】

#### ■1月31日(日)13:00~16:00

(屋外活動の場合)

野洲川吉永での地層の観察・発掘調査

(屋内活動の場合)

咽頭歯化石の観察

#### ■2月下旬

咽頭歯化石の同定作業



## (9) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員:奥田 岬

### 【活動報告】

#### ■12月6日(土) しめ縄づくり 会員3名

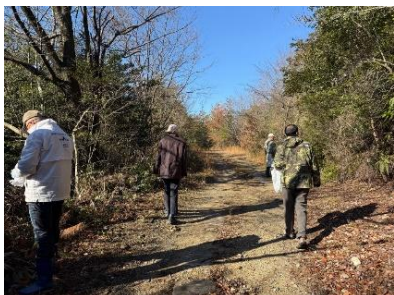
「里山の会」から3名が参加して生活実験工房でしめ縄飾りづくりをしました。「緑のくすり箱」さんとの合同の活動で、人数の関係で押され気味(笑)ではありましたが、皆さんご自身の感性で素敵な作品を仕上げられました。自作の飾りでお正月を迎えるのもいいなあと思いました。

縄ないの工程では、水に漬けた稲藁7本組3セットのうち、最初に2セットのみを用いて、右手でねじを回すように前へひねっても1セットの後ろに回す、という操作を繰り返します。各セットの太さが一様でなかったために棒に蛇が巻き付いたような状態になり、最初からやり直すはめになりましたが、工房の中川さんの手助けで何とかしめ縄らしきものができました。縄ないは、何度も練習してコツをつかむ必要があるようです。



#### ■1月10日(土) 冬の里山体験教室 下見 会員6名

野洲市大篠原にて冬の里山体験教室の下見を行いました。当日行う火おこしや里山遊びの材料となるものがないかを探しながら散策しました。集めたクリのイガや、サルトリイバラの実、松ぼっくりなどを缶に入れて花炭づくりを行いました。缶にたくさん詰めて作って見ましたが、思ったより(?)よくできていました。本番もどんな作品ができるか楽しみです。



#### ■1月18日(日) 冬の里山体験教室 本番 会員7名、一般参加者8名

快晴無風という最高の天気の中、今年度最後の里山体験教室を実施しました。

午前中は散策をして材料を集めつつ、火おこしと花炭づくりを行いました。秋とは違った様子を感じながら、ドングリや松ぼっくり、葉っぱなどそれぞれが気になるものを集めて制作しました。焚き火には秋に整備して置いておいた枝を使いました。

午後は花炭づくりの缶が冷めるまでの間、里山遊びを行いました。秋にも整備した竹林の竹を使って笛づくりをしました。いくつかのパターンの見本を見ながら好きなものを作りました。鳴らすのにも細かな角度の調整などが必要ですが、みなさん綺麗な音色を奏でていました。今年度の里山体験教室はこれでおしまいです。今年度も里山の四季を感じることができ、楽しい時間を過ごせました。



### 【今後の活動予定】

2月14日(土) お楽しみ会

3月7日(土) シイタケ菌打ち、総会



## (10) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

この冬は、例年通りの寒さで、鈴鹿山脈の初冠雪が11月19日、12月終わり頃からは山の上部はずっと白いままで、比良山系や伊吹山も同じような感じだ。ただ、不思議なことにロウバイの花が12月半ばから咲いていて、今早くも散り始めている。これらのことから考えると、今年は、セツブンソウ、フクジュソウ、ユキワリイチゲは例年のような時期に咲くのだろうか、それともロウバイのように早々と咲くのだろうか。今年も楽しみだ。

### 【活動報告】

#### ■ 11月29日(土) JICAの方達との交流 会議室 10:30~12:00 すぎ

参加者4名

はしかけ活動に参加した中での自分たちの楽しみ、複数のはしかけを掛け持ちしている中での成果や仲間との繋がり、はしかけに入ったきっかけなどを話した。はしかけ会員側の話としてJICAの方々の印象にも残ったようで、こちらにとっても貴重な機会だった。急な呼びかけにもかかわらず、説明に参加してもらったメンバーの繋がりへの強さに感謝です。

#### ■ 12月 7日(日) 都合によりお休み

参加者0名

#### ■ 1月 4日(日)「持ち寄っての観察」 博物館 実習室1 10:00~12:00 すぎ

参加者3名

メンバーの方がもってきた(花緑公園)ケンポナシを食べさせてもらうことから始まった。

食べられる部分は、花托?花柄?ただの茎? 味よりもそちらが気になり、調べたところ、はっきりとは書かれていないが、やはり花柄のようだ。こんなに長い(2~4cm)花柄とは、どんな花でどんな咲き方、構造になっているのか? 図鑑で見ても白い小さい花の総状花しか載っていない。構造は?と見たが、そこまで書いてあるものはなく、あきらめた。花の実物が見られるかもしれないので、今年は、花緑公園へ観察に行きたい。

ケンポナシの実、膨らんでぐにやっと曲がった花柄の先に1個ずつぶら下がっている。割ってみると薄い皮の中に3個の平たい種子(本当は核という)が入っていた。調べてみると、たまたま3個だったのではなく、3個と決まっているようだ。これも不思議だ。花の子房部分がどうなっていてこんなふうにくっ下がった核果、3個の種子になるのか。見れば見るほど不思議だらけの植物だ。あーあ...、結局また疑問だらけになった。花の実物を分解して見たい!

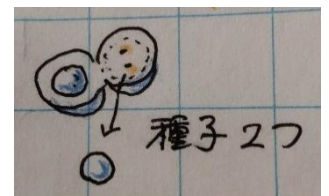
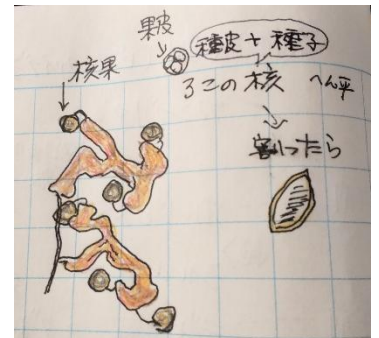
次に、ノブドウの実とローズマリーを見た。

ローズマリーは、触っている間に手がべたべたになったとのことで、何かが葉などにあるのではないかと拡大してみた。

茎部分には柔らかい銀色の毛があり、触って毛が取れた部分は何か濡れたようになっていた。葉をみると、葉の周辺部分に小さい水滴のようなものが見られた。葉全体が濡れているのではなく、明らかに内部から葉の先端に出てきている(水滴はほぼ等間隔についている、先端部分にだけある)。このオイルのようなものが匂いの元らしい。

ローズマリーの花は、雌しべと雄しべが長く伸び、下向きにカーブしている。雌しべと雄しべが上下にぴたっとくっついていてピンセットで離すとやっと見られる。他の花も調べてみると、雄しべが花の内側、下の方にくっつくようになっている。いくつかの花を調べると、このように雄しべが短い?退化している?ものがある。体力温存の方法なのだろうか。以前聞いた、短花柱花、長花柱花の話思い出した。

ノブドウの実、虫こぶになっている青い実を割ってみた。トガリバチやタマバエの幼虫が入って、虫こぶ状態になるらしいが、本当に虫が入っているのか今まで疑問だった。割ってみるとどれにもちゃんと種子が入っている。虫こぶになると、栄養を虫に取られて種子は育たないのかと思っていたが、違う。虫はただの居候で、植物には損をさせていない。種子ができないと次から自分たちの寄生する植物がなくなってしまう、自分たちも生きられなくなると困るからか? 上手くできているなあ、と感心するばかりだ。入っている虫も確認できたが、肉眼では小さい小さいオレンジの点にしか見え、拡大しても薄いオレンジ透明のぶにぶに(背が丸まっていて柔らかいエビのよう)にしか見えなかった。実に穴が空いているものも数個あったが、これは虫の脱出跡かもしれない。もちろん、この穴の空いた実にもちゃんと大きな種子が2個入っていた。



### 【今後の活動】

■ 月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。

■ 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。



## (11) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10 名】

グループ担当職員: 大塚 泰介(影の会長)

### 【活動報告】

たんさいぼうの会の新年会を、1 月 12 日(月)に草津市内某所で行いました。インフルエンザの流行などで欠席者が出ましたが、5 名が参加しました。昼間からこたつで鍋を囲んで一杯やり、できあがっていました。

会員の畑中顕さんが中心になって書いた論文が、昨年末に珪藻学会誌 *Diatom* から出版されました。この論文は主として畑中さんの大学院での研究成果なので、たんさいぼうの会名義にはなっていません。しかし 6 人の著者のうち畑中さんを含む 2 人がたんさいぼうの会の会員、2 人が元会員で、影の会長が最終著者という、たんさいぼう色がたいへん濃い論文です。2022 年と 2023 年に滋賀県大の環濠から採集した試料を光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡を用いて調査し、合計 62 属 174 種(未同定 19 種を含む)を記録しました。種数が最も多かった属は *Gomphonema* 属で、次いで *Nitzschia* 属、*Navicula* 属でした。かつて *Fragilaria* 属に分類されていた *Staurosira* 属、*Pseudostaurosira* 属、*Nanofrustulum* 属など十数種が観察されました。観察された種は富栄養化および弱アルカリ性の環境を示唆していました。本研究で確認された珪藻分類群は、琵琶湖の沿岸域からも広く報告されています。さらに、外来種と推定される数種が検出され、野外実習や研究活動に伴う魚類や二枚貝の人為的移動に関連した人為的導入を示唆しています。

Hatanaka A, Inoue M, Izumino H, Yoshiyama K, Negoro T, Ohtsuka T (2025) Diatom flora in a channel fed by Lake Biwa on the campus of the University of Shiga Prefecture, Japan. *Diatom* 41: 23–46.

PDFをご希望の方は、以下のサイトにある畑中さんのアドレスにリクエストして下さい。

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/diatom/41/0/41\\_23/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/diatom/41/0/41_23/_article/-char/ja)

同巻には、先に電子出版された、富小由紀さん(会長補佐)主著の論文も掲載されています。

富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2025) 古琵琶湖層群蒲生層最上部産の珪藻化石を用いた古環境復元. *Diatom* 41: 1–10.

こちらはオープンアクセスになっていますので、PDF をご希望の方は以下のサイトからダウンロードして下さい。

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/diatom/41/0/41\\_1/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/diatom/41/0/41_1/_pdf/-char/ja)

他にも野田沼・曽根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

### 【活動予定】

たんさいぼうの会のウェブページを、会長補佐の富小由紀さんが中心となって構築中です。今年度中くらいにはお披露目できると思います。



## (12) たんぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1 名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

冬の間も、電車に乗ると線路沿いのたんぼの様子をついつい眺める癖がついてます。芽を出したばかりの麦が一行に並んでいる圃場が広がっている姿を見ると、ああ、今年はこのあたりのたんぼは転作でエビ類の調査は無理そうだなあ…とため息が出てしまいます。

### 【活動報告】

・昨年は、採取したサンプルの同定、結果分析・検討会が順調に終了したので、エビ類と同じく会の活動も休眠期にはいっています。とは言え、3 月には本年度の活動報告と来年度の活動計画の提出が控えているので、その原稿と資料の作成をぼちぼちと進めました。そのなかで、これまでに調査したと我々が公言している 1000 近い 3 次メッシュの 3 割近くは、最後に調査したのが 20 年以上も前であることに気づきました。自然環境や稲作の状況が近年大きく変化していることを考えると、これらのメッシュにおけるエビ類の生息状況も調査した当時とは随分変化していることが予想されます。3 月の総会では、このような状況も踏まえて、今後の活動計画を議論できればと考えています。

### 【活動予定】

・例年通り、3 月に総会を開催する予定です。2 月に入ったら、メールで日程についての連絡を行います。

(山川 栄樹)



## (13) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また 10 時から 14 時までの一日の活動としています。(お子さんの様子に合わせて、いつ来ても、いつ帰っても OK です。)

### 【活動報告】

#### ◆12月の活動 12/17(水) 7組(幼児 11 名、大人 8 名)

12 月なのに、寒いような暖かいような中途半端な気温ですが、外で遊ぶには十分、7組の親子が集いました。11 月から参加してくださっているちこあそメンバーも一緒にです。

11 月に掘ったサツマイモを使って焼き芋をしました。まずはレンガのコンロで火おこし、火吹き竹を使ってフーフー。子どもだけでなく、お父さんもお母さんも初めての火吹き竹体験です。昔はこんな風に火おこしながら、日々生活していたことを想像しながら、懸命にフーフー。顔が真っ赤になった頃に、炭も真っ赤になります。元々小さかったサツマイモは、子どもたちにとっては扱いやすい大きさです。新聞紙でくるんで、水に濡らして、アルミホイルで包んで、炭火の上へ。上手に焼けますようにお願いして、焼ける間に、野点の時間となりました。

数年前に実施しましたが、久しぶりの野点です。砂利にムシロを敷いて、茶器を並べると、子どもたちも自然に集まります。何にも言わないのに、子どもたちは正座して背筋をピンとしています。野点の雰囲気がそうさせるのでしょうか。とても不思議です。お茶碗にそそがれたお抹茶をべっちゃんからもらって、一口、「おいしい」との声。お母さんたちとスタッフは「へえー、おいしいって思うんやね」と笑っています。飲み干して、おかわりする子も。お母さんたちもお茶をいただいて、「結構なお手前で」。子どもも大人も野点の面白さや雰囲気をたっぷりと感じられました。こんな小さな子も楽しめるんですね。

お抹茶をいただいて、さらに元気になって遊びます。冬の生き物を探したり、山盛りの落ち葉に埋もれたり、なんでも遊びになります。寒さなんてへっちゃらな 12 月のちこあそでした。

#### ◆森のようちえん全国交流フォーラムで、ちこあその活動を発表しました！2025 年 11 月 1日-3日 青森県 青森大学

森のようちえん全国交流フォーラム in 青森に出席し、はしかけ代表のまっちゃん(池田)と学芸員のべっちゃん(中村)が「博物館の森は親子が学び育つ場 琵琶湖博物館ちこあそ」と題して発表しました。滋賀県や琵琶湖、琵琶湖博物館の紹介から始まり、ちこあその活動紹介、子どもの学び、研究などたっぷり話し、参加者へ博物館を活用した親子の自然体験の良さを伝えました。

#### ◆ちこあその絵本をプレゼントしています

ちこあそで、自分で作るスタンプカードがあります。3 回スタンプがたまると、ちこあその絵本がもらえます。お家で絵本を読んで、室内でもちこあそを思い出して欲しいとの思いです。ぜひ 3 回来てください。

火吹き竹でフーフー	ヤモリが出てきたよ	野点しています	みんなでお花を飾りました
冬も水遊び	バンダナおじさんにしめ縄飾りを教えてもらいました	葉っぱ集めたよー！	森のようちえん全国交流フォーラム in 青森での発表

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃん)が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで1か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
2月	2月 18 日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 2 月	定員 10 組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。
3月	3月 18 日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 3 月	ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンボンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆったり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 36 名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 2025 年 11 月 30 日(日) 参加者:10 名、学芸員1名  
博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。



11 月 30 日の活動の様子とプランクトン

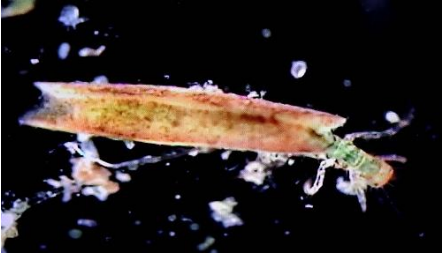


11 月 30 日の活動で見つかったプランクトン

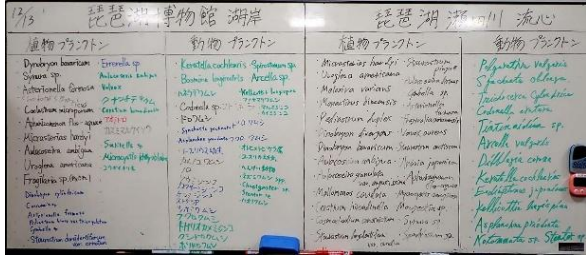
■ 2025 年 12 月 15 日(月) 参加者:14 名 学芸員:2名  
博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。午前は新聞記者の方が取材に来ていました。午後は鈴木学芸員のもとに持ち込まれた生物を見せて頂いたり、大塚学芸員の顕微鏡撮影の様子を見せて頂きました。



取材の様子



オヒメトビケラ幼虫



12 月 15 日の活動で見つかったプランクトン

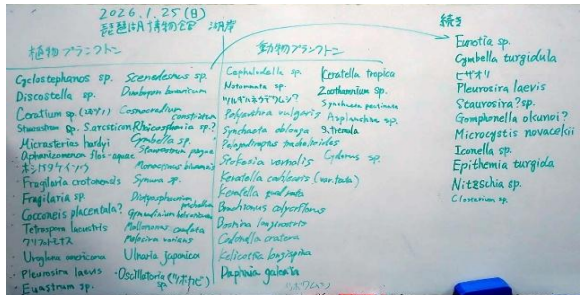
■ 2026 年 1 月 25 日(日) 参加者:12 名 学芸員:1名  
博物館前のプランクトンを観察しました。風が強かったため、底から巻き上がった付着藻などが多く採集されました。



取材の様子



Epithemia



12 月 15 日の活動で見つかったプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



【活動報告】

■12月13日(土) 葉っぱでランタンをつくろう 参加者 29名

わく探新プログラムを実施しました。葉っぱ博士として大槻学芸員に参加していただきました。

まずは葉っぱのイメージを描いてみよう!と参加者に紙と色鉛筆を渡して各々の葉っぱを描いてもらいました。丸い形や紅葉の形など代表的な形を描く参加者が多いようでした。次に、あらかじめ準備しておいた色々な形の葉っぱを紹介しました。印象的だったお話は、同じ種類の葉っぱでも虫に食われていたり鳥の糞が付いていたり、全く同じものはないとの言葉でした。同じ木の葉っぱでも隣の枝の葉っぱと比べるきっかけになるような言葉でした。

そして、ランタンづくりのための葉っぱを屋外展示で集めました。博士の話で心を掴まれた参加者は葉っぱを集めながら次々に博士に見せに行ったり質問したり…予定より長めの屋外展示散策でした。

集めた葉っぱを持ち帰り、ランタンづくりをしました。集めた中からどの葉っぱをどんな風に並べようか、創作意欲が湧くいい時間でした。最後にみんなでランタン点灯式。実習室が年末のイルミネーション会場のようにになりました。

久々の新プログラムは大槻学芸員さんの魅力爆発の良いプログラムになりました。出来れば来年度も実施出来たらなあと思います。



■1月10日(土) 綿にふれてみよう 参加者 25名 教師塾 5名

恒例の綿糸プログラムです。はたおり探検隊のみなさんと合同で息ぴったりプログラム(\*~\*)

いつものわく探参加者は小学校低学年以下の年齢層が多いのですが、今回は中学生、高校生、大人のみの参加者もありました。生活実験工房が手狭に…(・・)

今年はカイク展示増設! ?で楽しんで学んでいただけたのではないのでしょうか。

綿から糸、糸から布…と変化する様子を目の前で体験出来るプログラムはびわ博自慢のプログラムのひとつだと思います。振り返りでみなさんと話していたら、始まりは2004年と発覚☆教師塾に来ていた大学生は生まれていなかった事もさらに衝撃☆★色々な技や道具、生活の知恵など机上では得られない知識や経験は博物館ならではのと思うので、これからもはたおり探検隊のみなさんと参加してくれる方々といい時間を続けていけたらと思います。





## (16) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

### 【活動報告】

■12月6日(土) 参加者:4名

カミツキガメの解剖、タヌキの解剖、を行いました。

■12月14日(日) 参加者:3名

カラスの仮剥製、マングースの解剖、を行いました。

■1月18日(日) 参加者:3名

イタチの解剖、タヌキの解剖、を行いました。

■1月31日(土) 参加者:4名

カミツキガメの解剖、タヌキの解剖、キツネの組み立て、ツキノワグマの骨のクリーニングを行いました。

今回クリーニングを行ったツキノワグマの頭骨は頭頂部から後頭部にかけて大きく破損している状態だったので、細くなっているかけらを失わないように注意深く作業を行いました。

活動していると今回のように破損した骨に出会う事もありますが、普段見る事の多い破損のない状態の標本では見る事が出来ない、その骨の内部の構造を見る事が出来るので、新たな発見があつて興味深く観察する事が出来ました。

今回で言うと、二枚目の写真は脳が入る場所が見えている状態で、その前方の額にあたるような場所に、空洞の部屋のようなスペースが観察できたのですが、これは今回のように破損した標本を観察する機会がなければ、自分では気付く事は無かったのではないかと思いますので、とても興味深い発見でした。

### 【活動予定】

2月の活動予定日は15日(日)と28日(土)に予定しております。

3月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



▲▼ツキノワグマの頭骨の正面と背後から撮影したもの



## (17) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

■12月6日(土) 午前 参加者:14名

活動内容:しめ縄作り(琵琶湖博物館 生活実験工房)

1年は早いもので12月になり、しめ縄作りの時期になりました。今年も生活実験工房の中川さんをお願いして、しめ縄の作り方を教えていただきました。今回は、はしかけグループ「里山の会」との合同開催でした。生活実験工房の田んぼで育った稲わらを使わせていただきましたが、今年は量が少なめと伺っていたので、大事に使わせて頂きました。

最近しめ縄もいろいろなものが販売されており、買えばすぐに手に入ります。しかし、稲わらから自分でしめ縄を作るという体験は、とても価値があると思います。

また12月14日に琵琶湖博物館主催の田んぼ体験で、一般のお客様向けのしめ縄作りイベントに協力できるように編み方を習得しました。中川さん、1日お世話になりました。

### 【参加者の感想】

- ・今年は藁を数えるところからだったので、仮止めから少し難しかったです。今年のはうるち米の藁で、もち米とは違い粘りがないというのがよく分かりました。
- ・編み上げるのがとても楽しい作業で、年末を感じながら心安らぐ会でした。
- ・しめ縄作りの準備に関わらせて頂き、お米不足も経験し、お米の大切さを感じるところで、稲藁で作るしめ縄に昔の人の込められた願いが感じられるような気がしました。



■12月14日(日) 午前 参加者: 3名

活動内容: 田んぼ体験 博物館主催のしめ縄作り(琵琶湖博物館 生活実験工房)

琵琶湖博物館の田んぼ体験のしめ縄作りに、3名お手伝いとして参加させていただきました。今年は応募人数が大変多く、抽選となったとお聞きしました。皆様、大変楽しそうにしめ縄を編んでいらっしゃいました。

■1月25日(土) 午前 参加者: 8名

活動内容: こんにやく作り(琵琶湖博物館 実習室2)

緑のくすり箱では初めての試みですが、こんにやく芋からこんにやく作りを行いました。数年前に、こんにやく芋を自分たちで育てて、こんにやくを作ってみようと、メンバー数名に小さな芋を配布して育ててみたのですが、ほとんどが失敗。今回、3年育てて唯一残ってできた芋と、永源寺のほうで購入したものを使いました。

こんにやく芋は泥をたわしでこすっておとし、カットしてゆでます。(皮をむかずに作ると黒いこんにやく、皮をむいて作ると白いこんにやくになるそうです。)柔らかくゆであがったら、ゆで汁と一緒にミキサーにかけます。攪拌していくとだんだん生地が重たくなっていくので、ミキサーが壊れないように休ませながら作業していきました。生地をボールにうつし、手で攪拌していくのですが、かなり強く早く混ぜる必要があるため体力が必要でした。さらに凝固剤を加えて混ぜて、生地をバッドに流し固め、カットしてから茹でて出来上がりです。

出来上がったこんにやくには、成功したものもあれば、失敗してしまったものもあり、段取りでいろいろと反省点があるので、来年の活動につなげていきたいと思えます。市販のこんにやくの種類や、歴史についても興味がわき、調べて共有しました。こんにやくのことを詳しく学べた一日となりました。



### 【活動予定】

- ・2月23日(月) 10:00~15:00 MPソーブ作り(実習室2)
- ・3月上旬 年度末総会(日程・場所未定)



## (18) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 今田 舜介

### 【活動報告】

■12月の活動は雨のため中止になりました。

「虫架け通信」87号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

### 【活動予定】

これからも1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責: 伊東)



## (19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

■12月13日(土) 研究交流室にて会議 参加者:(会員)4名(博物館職員)林

- ①フォレストマスター(来館者の方々に屋外展示へ足を運んでもらえるよう、植物や樹冠トレイルに関する問題を解きながら楽しんでもらえるように、と作成している)の検討。昨年度「1,2月号」としていたものを「冬号」とする、問題内容の見直しをしたが今年度は変更せず昨年度のままとする、次の「春号」については、春は植物の移り変わりが早い「3,4月号」とか「4,5月号」とかにするのがいいのかをまた次回話し合う必要がある、「春号」or「3,4月号」「4,5月号」ならばどんな問題がつけれるか、などを話し合った。
- ②1月24日のリースづくりについて。今回は無理なので、来年度12月に間に合うようにつくり、展示してもらえるようにするのが良い、昨年度つくったリースを解体し土台の藤づるは再利用する、11月のびわフェスの準備と平行してリースの材料集めなどをする、びわフェスで展示してもイイかもしれない、燻蒸の日も関係するのでそれらも考慮してつくる日程を決める必要がある。

■12月27日(土) 年末のためお休み 参加者: 0名

■1月10日(土) 研究交流室にて会議 参加者:(会員)6名(博物館職員)林

- ①フォレストマスターのキャラクター名の投票結果(びわフェスの屋外クイズラリー参加者に投票してもらった)を、「冬号」を出すときに一緒に掲示する。次回のフォレストマスターの中にもキャラクター名を入れる。
- ②「冬号」の内容は、昨年度の「1,2月号」と同じ問題にする。
- ③フォレストマスターの「春号」は、4月5月の内容でつくる。4問。  
△シイ・クリの花、  
◎カエデのなかまの花(花をメインとする、花が終わっても実が見られる)、  
◎ビワコオオナマズのオブジェ、  
◎ハルジオンとヒメジョオン、  
△比良山系・比叡山や琵琶湖大橋などの景色、  
◎伝統的漁法のエリ漁の実物を捜す(B展示室の画像を使う)
- ④1月24日の予定 リースの解体作業場所:生活実験工房、持ち物:軍手やはさみ、「春号」の確認、時間があれば屋外展示のクズの除去作業
- ⑤2月、3月の予定 2月14日 お休み、2月28日 次年度計画とクズ除去、  
3月14日 クズ除去、3月28日 暖かければ屋外で観察



【活動報告】

本会唯一の会員は、相変わらず「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」で、プランクトンや付着藻類の観察にいそしんでいます。同会に集う同年代や年上の仲間とともに、自分たちが進めている研究の話で盛り上がっています。

【活動予定】

琵琶湖梁山泊では、引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか？特に「びわ博子ども若者研究発表交流会」で発表した皆さんや琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生、研究が進展しすぎて先生の手にも負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。まずは2月22日からのはしかけ登録をして、はしかけ代表アドレスにご連絡を。

集え梁山泊へ！



(21) サロン de 湖流

【活動報告】

■「びわ博フェス」以来、特に活動実績はありません。

【活動予定】

■ コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、興味を持ってくださる方からは継続的に声をかけていただいていますので、この状況でどのような活動展開が可能かを模索しています。



(22) 水と暮らし研究会

【活動報告】

■ 令和7年12月10日(水) 9:00-12:00 晴 参加者 5名

1. 活動先: 東近江市小田苅町内
2. 調査内容。

今回は東近江市小田苅町(こたかりちょう)集落の現状と、隣接する建部北町を結ぶ県道13号線の八千代橋上からの愛知川中流域の河原の状況を現地調査した。この調査は前回同様、「猿尾」の痕跡の調査も兼ねたものである。

3. 調査結果。

①小田苅町の現地調査結果として。

小田苅町の水利は東部堤に愛知川本流、集落内には黒内井(くちゆ)、西方には安壺井(あんこゆ)の3本の水源を有している。周辺は現在でもこの灌漑用水がはりめぐらされており、稲作が盛んにおこなわれていることが伺える。

町内には、江戸後期に彦根藩と密接な関係となり財をなした近江商人、丁吟家(現在の近江商人郷土館)の記念館がある。幕末を乗り切り、明治以降も反映し、郷土へ多額の寄付をした記録が残されている。

集落中央の八幡神社には神仏習合時代の鐘楼が残されている。鎮守の杜の裏境界に黒内井が流れており、隣接する。民家には「カワト」や分流枡も確認できる。愛知川中流域でみられる丸石を積み上げた基礎石垣はこの地域でも確認できる。また、町内のはずれの道路脇に河岸段丘の名残りと思われる段差も確認できる。

②愛知川中流域の流れを八千代橋上から観察してみると。

渇水期でもあり、本流は左岸に流れている。広い川幅の大半が干しあがっている状態であるが、角のとれた大小の丸石が多数転がっている。昔はこの丸石が多く家屋の基礎石や石垣に利用されたのであろう。但し、現在の碎石は禁止されている。

③小田苅町域に残る「猿尾」の痕跡の調査結果として。

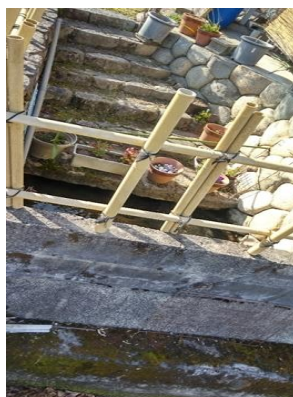
小田町域に残る「猿尾」と思われる入域は、雑木林が繁茂し、密林化状態であり、現地調査は困難であった。



□ 八幡神社の鳥居



□ 八幡神社の鐘楼



□ 黒内井につながるカワト



□ 黒内井の分水樹



□ 丸石垣

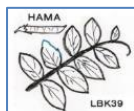


□ 八千代橋上からの愛知川



□ 八千代橋からの愛知川本流

執筆者 小篠 伸二



## (23) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

■ 2025年11月 4日(火) 9時30分～11時30分

天候:曇り 気温:10℃(9時30分) 琵琶湖の水位: -50cm 参加者:5名+地元の宇野さん参加

### 新海浜の状況

\* 曇り空ではあるが風もなく琵琶湖も穏やかでガラスのようだ。対岸の山もすっきり見え、伊吹山も見える。

水位が低いせいか、浜が広く感じられる。打ち上げられた水草も二層になって水位の変化がわかる。

ハマゴウも草も枯れ秋の終わりを感ぜさせる。

### 定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

### 海浜植物の生育状況

ハマエンドウ 一目見て10月7日の活動日より緑が広がり新葉も茎ものび、葉も大きく育成していることが見て取れる。

駐車場側の入り口、琵琶湖側の松の木の下、先日伐採した松の付近、雑草との共存場所等は広がっていて勢いも良い。

琵琶湖側の入り口付近も広がってきた(入り口の変更を検討する要あり)。

今年の夏は気温が高く降雨量も少なかったが、ここ最近気温も落ち着き雨も適度に降ったため生育が進んだようだ。  
2024. 11. 05の写真と比べると南側への広がりを確認できる。



ハマエンドウ  
(新芽の葉も茎も伸びている)



琵琶湖側入り口に広がる  
ハマエンドウ



2024年11月5日の  
ハマエンドウ

ハマゴウ 枝も枯れてきた。葉も少なくなり種が浜に落ちている。

ハマヒルガオ 全体的に枯れてきた。



⇐ 葉も落ちたハマゴウ

ハマヒルガオ ⇒



### 今日の作業内容

・枯れた松の伐採(16本)保護区域西側。枯葉は北風の当たる琵琶湖枯れた側に敷き詰めた。

### ■ 2025年11月21日(金) 9時30分～11時30分

天候:晴れ 気温:11℃(9時30分) 琵琶湖の水位: -59cm 参加者:7名+地元の宇野さん参加

### 新海浜の状況

\* 空も琵琶湖も青く空と琵琶湖が一体化しているように見える。風もなく琵琶湖も弱い波で穏やかだ。対岸の山は霞んでいる。

\* ハマゴウも草も枯れ地肌が見え冬を感じさせる。

### 定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

### 浜植物の生育状況

ハマエンドウ 前回の11月4日と変わらず緑が広がり新葉も茎もしっかり育成している。敷き占めた松の枯れ葉とハマエンドウの緑がマッチしてきれい。所々新芽が出ているのが確認できる。又、ツル?と思われるものを伸ばしているものもある。

ハマゴウ 葉も枝も枯れて地肌が広がってきた。

ハマヒルガオ 全体的に枯れてきた。



ハマエンドウ  
(ツル?を伸ばしかけている)



新芽もみられる  
ハマエンドウ



ハマゴウも冬模様



ハマヒルガオ

## 今日の作業内容

- ・枯れた松の伐採(7本)保護区域西側。枯葉は中央や北風の当たる琵琶湖側に敷き詰めた。



枯れた松の伐採前



伐採作業中



枯れた松の伐採後

## ■ 2025年12月 2日(火) 9時30分～11時30分

天候:霧のち晴れ 気温:12℃(9時30分) 琵琶湖の水位: -65cm 参加者:7名

## 新海浜の状況

- \* 霧が立ちこめ琵琶湖対岸の山もぼんやり見える。風もなく琵琶湖も弱い波で穏やかだ。水位が一段と下がり広い浜に枯れたハマヒルガオやハマゴウが本格的な冬の到来を思わせる。すっかり寂しい浜になった。

## 定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

## 海浜植物の生育状況

- ハマエンドウ 今年はやかいせいか今も葉も緑が濃いが心なしか緑の広がりが小さくなってきた。敷き占めた松や落ち葉が目立ってきた。
- ハマゴウ 葉も枝も枯れて種も黒くなり地肌が広がってきた。
- ハマヒルガオ 全体に葉も茎も枯れた。



ハマゴウもすっかり枯れた



ハマゴウもすっかり枯れた

## 今日の作業内容

- ・保護区域南側に波板を拡張(幅約5m×奥域20m)
- ・拡張した場所のツルニチニソウ駆除及び草の刈り取り



波板拡張 前



波板が倒れないように竹で補強



波板拡張 後

■ 2025 年12月19日(金) 9時30分～11時30分

天候:晴れ 気温:5℃(9 時 30 分) 琵琶湖の水位:-72cm 参加者:7 名

新海浜の状況

- \* 空も琵琶湖も青く、風もなく琵琶湖も弱い波で穏やかだ。対岸の山裾は雲がたなびいている。
- \* 水位が一段と下がり浜が広く、打ち上げられた一連の藻が目につく。
- \* 水鳥が十数羽、羽を休めたり潜ったりしている。

定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

海浜植物の生育状況

ハマエンドウ 霜枯れもなく変わらず緑が広がり新葉も茎もしっかり育成している。所々落ち葉に埋もれている。

ハマゴウ 全体的に黒っぽくなってきた。

ハマヒルガオ 見当たらない。



所々松とハマエンドウが育っている



西側のハマエンドウとチガヤと共生



ハマゴウも黒っぽくなり始めた

今日の作業内容

- ・琵琶湖側防風アミの補強
- ・保護区外東側中央の波板撤去
- ・保護区外東側ソルニチニチソウ駆除



防風予防の網の補強



防風アミ補強完成



波板の撤去

次回作業日:2026年 3 月 3 日 (火)予定です。

以上



## (24) 内湖を知ろう会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

### 【グループ紹介】

私たちは、レイカディア大学の卒業生です。大学での授業で琵琶湖周辺に「内湖(ないこ)」という湿地がいくつも残存していることを初めて学びました。そこで、内湖に興味を持ち、「内湖にはどんな価値があるのか」「現在もその価値は有効なのか」といったことを調べようと、課題学習において内湖を取り上げ、現地調査をしたり、保全活動されている団体にヒアリングを行い、1年半をかけてレポートを作成しました。昨年秋に卒業しましたが、さらに広く深く学ぼうと、琵琶湖博物館の「はしかけ制度」を活用し、今年2026年1月4日に「内湖を知ろう会」を立ち上げました。

これから学習や現地調査、地元の方々へのヒアリング等を進めていく所存ですが、これら内湖に関する調査活動等を多くの人に知って頂く為に、外部にも積極的に情報発信し、また子どもたちの環境学習の一環としても利用して頂こうと考えています。この活動に多くの人を巻き込み、環境に関心を持つ人を増やせば、琵琶湖周辺の環境を良い方向に変えていくことができるのではないかと考えています。よろしくお願いします。

### 【活動報告】

■2026年1月15日(木)10時～13時 場所:琵琶湖博物館 参加者:会員5名、オブザーバー2名

本会設立以来、初めての会合を琵琶湖博物館で開催した。当日は、ニューズレターの構成、本会のロゴマークの検討、活動の基本方針の確認等を行い、後半は本会担当の芦谷学芸員にも参加をお願いし、これからの活動に関し様々なご助言をいただいた。

ニューズレター(ロゴマークを含む。)の原稿を1月20日頃ぐらいまでに作成し、芦谷学芸員に送付し、助言を受けることとした。

■2026年1月29日(木)10時～13時 場所:琵琶湖博物館 参加者:会員4名、オブザーバー2名

<活動内容>2026年度年間計画策定等

### 【活動予定】

2026年度年間計画での課題の共有など計画実施に向けた準備を行う予定をしています。

(文責:服部 敏之)

## 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(2月～3月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
ナイトミュージアム特別企画 ヨシ灯りをつくろう①	ヨシ原について学び、西の湖のヨシでランプシェードを作ります。作った作品は、3月実施のナイトミュージアムで展示されます。	2026年 2月7日	土	13時00分 ～ 15時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 20 作品分 (先着、事前申込) ※材料費 500 円 ※当日持ち帰り不可、ナイトミュージアム後、当館受け取り。
【田んぼ体験】生活実験工房 田んぼ体験 わら細工	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、わら細工作業を体験して頂きます。	2026年 2月8日	日	10時30分 ～ 12時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 20 名程度 (要事前申込、多数の場合は抽選) ※小学生以上 ※多少汚れてもよい服装をご準備ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】 水鳥を観察しよう！	双眼鏡やフィールドスコープを使って、琵琶湖に飛来する水鳥を観察します。普段何気なく見ている鳥たちの様々な違いに気づくことができるプログラムです。	2026 年 2月 14 日	土	13 時 30 分 ～ 15 時 00 分	実習室2 C 展示室 樹冠トレイル	※定員 15 名(先着) ※当日受付(13 時 00 分～)受付は実習室 2 で行います。 ※雨天決行
ちこあそ・2月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。 2月は雪が降るかな。	2026 年 2月 18 日	水	10 時 00 分 ～ 14 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 10 組(先着) ※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯にお越しください。
はしかけ登録講座 (オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制度の概要を説明するとともに、はしかけ各グループの活動内容を紹介します。また、はしかけ制度への入会手続きを行います。	2026 年 2月 22 日 ～3月8日	-	左記期間のうち任意の時間(1 時間 30 分程度)	オンライン	※登録にはボランティア保険料 350 円が必要 ※要事前申込 ※14 歳未満は保護者同伴
ナイトミュージアム特別企画 ヨシ灯りをつくろう②	ヨシ原について学び、西の湖のヨシでランプシェードを作ります。作った作品は、3 月実施のナイトミュージアムで展示されます。	2026 年 2月 21 日	土	13 時 00 分 ～ 15 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 20 作品分(先着、事前申込) ※材料費 500 円 ※当日持ち帰り不可、ナイトミュージアム後、当館受け取り。
【わくわく探検隊】岩石 標本箱をつくろう！	いろいろな石を観察して名前をつけて自分だけの岩石標本箱をつくろう！	2026 年 3月 14 日	土	13 時 30 分 ～ 15 時 00 分	実習室1	※定員 15 名(先着) ※当日受付(13 時 00 分～)受付は実習室 1 で行います。 ※雨天決行
地域の魅力の再発見 連続講座	自然と関わる多様な知恵や工夫などを紹介し、地域の魅力を再発見するための連続講座を開催します。	2026 年 3月 15 日	日	14 時 00 分 ～ 15 時 00 分	会議室	※定員 20 名程度(要事前申込、多数の場合は抽選) ※中学生以上
ちこあそ・3月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。 3月はそろそろ春が見つかるかな。	2026 年 3月 18 日	水	10 時 00 分 ～ 14 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 10 組(先着) ※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯にお越しください。

## 4. 生活実験工房からのお知らせ

今号では、この冬(12月～2月)に開催されたイベントと、今後予定している催しについてご紹介します。

12月14日には「しめ縄づくり」を開催しました。今年も多くの方にお申し込みいただき、ありがとうございました。工房の田んぼで収穫した稲わらを使用し、今年の干支である「馬」をモチーフにした作品など、個性豊かな仕上がりが多く見られました。参加者の皆さまにも大変楽しんでいただけたことと思います。

1月の休館日には、職員によるどんど焼きを実施しました。お正月飾りのお焚き上げや、わら・廃材を使った弥生式土器づくりなど、静かな田んぼで新年の始まりを感じるひとときとなりました。

また、来る2月8日には、今年度最後の体験イベント「わら細工」を開催します。応募期間は既に終了しましたが、今回も多数のご応募をいただいております。手作りの一輪挿しやミニすだれづくりを通して、自然素材に触れるものづくりの楽しさを味わっていただければと考えています。

今年度の田んぼ体験イベントは、2月の「わら細工」をもって終了となります。現在、来年度の企画を準備中です。詳細はニュースレターやホームページ「イベント情報」でお知らせします。皆さまにとって実りある体験となるよう、スタッフ一同、心を込めて準備を進めてまいります。ご家族やご友人とお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

担当: 環境学習・交流係



▲12/14 「しめ縄づくり」イベントの様子



▲「わら細工」で作る一輪挿しとミニすだれ

## 5. その他の事項

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニュースレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。**メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。**

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、必ず会員証を持参してください。会員証を携帯せずに活動することはできません。

### (4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。